

## 2010 年度秋季大会の告示

### I. 大会の案内

1. 期 日
 

2010 年 10 月 27 日 (水) ～29 日 (金)

懇親会  
第 3 日 (10 月 29 日)  
午前：口頭, ポスター  
午後：口頭
2. 会 場
 

京都テルサ  
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 7 0 番地  
(新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内)  
<http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>
3. 研究発表
 

気象学に関する学術成果の研究発表を募集します。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
 

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日 (10 月 27 日)  
午前：口頭  
午後：口頭, ポスター

第 2 日 (10 月 28 日)  
午前：口頭  
午後：授賞式, 受賞記念講演, シンポジウム,
5. シンポジウム
 

大会第 2 日 (10 月 28 日) の午後に開催予定です。テーマは「大気圏のさまざまな境界面での相互作用」です。
6. 懇親会
 

大会第 2 日 (10 月 28 日) の夕刻に、京都テルサ大会議室にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2010 年 5 月 11 日 (火) 開設予定】
 

本大会では、講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイトを、2010 年 5 月 11 日 (火) より開設する予定です。URL 等の詳細につきましては、気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

### II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法
 

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

  - 1.1 オンラインによる申込
    - ・申込開始:2010 年 6 月 15 日 (火)
    - ・締切: 2010 年 7 月 20 日 (火) 15 時 (日本時間)
    - ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
    - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います (前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行います。
    - ・個人情報と ID・パスワードの登録は講演者本人が

行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。

- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り(7月20日(火))までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

## 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2010年7月13日(火)必着  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
  - ① 予稿原稿
  - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
  - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)
 送付先：  
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所予報研究部内  
気象学会講演企画委員会事務局  
(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
  - 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ①「2010年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
    - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
    - ④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

- 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- 払込料金は本人負担でお願いします。

## 1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意ください。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2010a@metsoc.jp)までご相談下さい。

## 2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

### 2.1 オンラインによる申込

2010年9月7日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む(クレジットカード決済のみ)。

### 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2010年8月31日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込む。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
  - 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ①「2010年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②大会参加種別(聴講者)
    - ③大会参加費金額
    - ④懇親会費金額
    - ⑤合計金額
  - 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
  - 払込料金は本人負担でお願いします。

### 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

### 3. 参加費、懇親会費

#### 3.1 大会参加費

- 大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

| 大会参加費 |         |         |
|-------|---------|---------|
| 種別    | 前納      | 当日      |
| 講演者 A | 8,000 円 | —       |
| 講演者 B | 5,000 円 | —       |
| 聴講者   | 3,000 円 | 4,000 円 |

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

#### 3.2 懇親会費

- 懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。
- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費

と同時に前納することができます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

| 懇親会費 |         |         |
|------|---------|---------|
| 種別   | 前納      | 当日      |
| 一般   | 5,000 円 | 6,000 円 |
| 学生   | 3,500 円 | 4,000 円 |

#### 3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- 領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- 参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただけると、よりスムーズに受付を行うことが可能です。
- 秋季大会開催期間は観光シーズンに当たります。ホテルの予約は早めにお済ませください。

## Ⅲ. 予稿原稿作成要領

### 1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

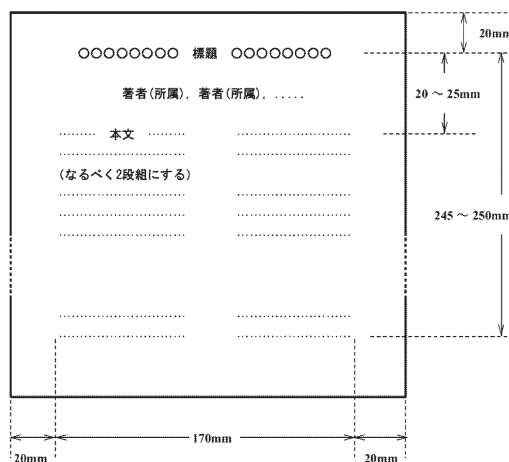
### 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

### 3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

### 4. 配置（付図参照）



図：A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分→右

半分）にして下さい。

## 5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。

## IV. 研究発表要領

### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の 2 種類があります。

### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

### 5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 20 日（火）、郵送申込は 7 月 13 日（火））です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話

人が予稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。

- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

### 6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦 140 cm×横 90 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

### 7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PC プロジェクターの使用に当たっては、以下の点に留意して下さい。
  - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
  - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場

合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

## 8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でないと講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

## V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の7件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

### 1. 「黄砂とバイオエアロゾル：発生-輸送-分布-沈着-影響評価へのモデル化-」

**趣旨：**黄砂とバイオエアロゾルは、「地表から飛び立って長距離輸送され、いずれ風下地域に沈着する」という点で類似している。大気への供給や輸送・空間分布、あるいは大気中での変質、沈着量の地理的分布など、概要は知られつつも未だその詳細については不明な点が多い。さらに、黄砂もバイオエアロゾルも、健康影響から気候影響まで、関連分野が広いことも共通したおもしろさと言えるだろう。

本スペシャル・セッションでは、黄砂とバイオエアロゾルの発生-輸送-分布-沈着-影響評価へのモデル化まで、似ているが異なる両分野の最新の研究成果を共有し、発生源や沈着域での観測やリモートセンシング、種々のモデリングなど、異分

野交流をも含めた活発な議論を期待したい。

**世話人：**長田和雄(名古屋大学大学院環境学研究科)、三上正男(気象研究所)、岩坂泰信(金沢大学フロンティアサイエンス機構)、甲斐憲次(名古屋大学大学院環境学研究科)、松木 篤(金沢大学フロンティアサイエンス機構)

### 2. 「異常気象と低周波変動」

**趣旨：**今年の冬の異常気象(北半球寒冬)は記憶に新しい。マスコミも大々的に報じるなど、社会的関心も高い。しかし異常気象の解明は一筋縄ではいかない。現象間の関係が複雑であることも一因であるが、基礎となるべき低周波変動の力学が十分に発展していないことも大きい要因である。今冬もブロッキング、エル・ニーニョ、突然昇温などが関係していたが、これらはそれぞれ内部力学、外部強制、対流圏・成層圏相互作用などの発現であり、解明すべき課題が多いことを示している。このような現状を踏まえ、これまで様々に発表されてきた異常気象(とそれに関係する気候変動)の具体的研究と低周波変動に関する力学的研究を一堂に集め、その発展を横断的に概観することは非常に意味のあることと考えられる。このなかで両者をつなぐ問題意識を共有するような議論を展

開していきたい。もちろん広い立場からこれらを考えることが重要なので、異常気象・低周波変動に広く関係すると思われる研究発表も歓迎する。

**世話人:** 伊藤久徳 (九州大学大学院理学研究院), 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 向川 均 (京都大学防災研究所), 中村 尚 (東京大学大学院理学系研究科)

### 3. 「温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT 「いぶき」の利用研究」

**趣旨:** 2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT 「いぶき」は、大きな障害もなく順調に観測を続けている。GOSAT は宇宙航空研究開発機構 (JAXA), 環境省 (MOE), 国立環境研究所 (NIES) の共同プロジェクトであり、亜大陸規模での二酸化炭素の発生・吸収強度の推定誤差を半減させることを最大の目標としている。2009年2月までに初期検証作業が終了し、2010年2月より二酸化炭素とメタンの濃度データ (レベル2データ) の一般配布が開始された。本セッションの前半では、初期校正検証作業の結果を踏まえたセンサー性能とデータ品質についてプロジェクト関係者を中心に発表を行う。後半については、既に配布されたデータを用いた研究発表の他、今後公開されるデータを用いる幅広い応用分野を含む研究発表も募集する。これには、CAI センサー等を用いたエアロゾルや雲に関する発表も歓迎する。本セッションを GOSAT データの有効性と発展性を広く議論する機会としたい。

**世話人:** 今須良一 (東京大学大気海洋研究所), 井上元 (総合地球環境学研究所), 横田達也 (国立環境研究所), 中澤高清 (東北大学), 近藤 豊 (東京大学先端科学技術研究センター), 中島映至 (東京大学大気海洋研究所)

### 4. 「気象情報・知識の伝達・普及 (II)」

**趣旨:** 気象技術の進歩とともに、気象情報が質・量ともに急速に充実している。しかし、折角の気象情報も、伝わり、理解され、活用されなければ意味がない。気象情報の作成には適切な内容と発表のタイミングが重要であり、受け手側の理解、活用も問題になる。近年の集中豪雨や津波などの事例において、さまざまな重要な課題が指摘されて

いる。また、気象情報の伝達、活用においては気象予報士の役割が期待されている。

昨年の秋季大会に続き、このセッションでも気象情報の作成、伝達、関連知識の普及・訓練に携わる人々の、日ごろの研究成果が発表されることを期待している。

課題としては、①情報作成時の配慮・工夫、②伝達に際しての配慮・工夫、③気象知識の普及 (学校教育を含む) 及び気象情報等活用訓練の実施、といったところが挙げられる。それぞれの問題点のありかや克服の仕方などについての発表をお願いし、その成果を共有することにより、今後の進展に繋げていきたいと考えている。

**世話人:** 奥語基宏 (日本気象予報士会), 川邊昭治 (日本気象予報士会), 弘中秀治 (宇部市防災危機管理課), 岩田 修 (日本気象予報士会), 白石晶二 (日本気象予報士会)

### 5. 「マルチ気候モデルデータ解析による地球温暖化現象の理解」

**趣旨:** 地球温暖化は市民生活の中でも関心の高い問題である。特に私たちの生活を左右する日々の天候は、温帯低気圧や台風の強さや経路、熱波や寒波、豪雨や干ばつといった、短周期の気象・海象の現れ方に大きく影響されるため、その将来変化についての見通しはたいへん重要である。将来気候の解析には WCRP 第3次結合モデル相互比較プログラム (CMIP3) の 21 世紀シナリオ実験結果などが利用されるが、世界の気候モデルによる答えには、その属性としてある程度のばらつきがある。本スペシャル・セッションでは、このばらつきを含むマルチ気候モデルの比較解析の特長を生かして、現象のメカニズムとモデル再現性についての理解を深めると共に、温暖化の影響でそれらが将来いかに変化・変調するかについての予測結果を解釈するための議論をしたい。また、IPCC 第5次報告書に向けての新気候モデル実験についての解析結果を含む議論も歓迎する。

**世話人:** 高薮 縁 (東京大学大気海洋研究所), 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 中村 尚 (東京大学大学院理学系研究科), 尾瀬智昭 (気象研究所)

### 6. 「温暖化予測のための力学的および統計的ダウン

### スケーリング研究の現状と問題点」

**趣旨：**21世紀気候変動予測革新プログラムや地球環境研究総合推進費戦略的研究開発プロジェクトにおいて地球温暖化予測のための力学的および統計的ダウンスケーリング研究が実施されており、多くの成果が報告されている。しかしながら、ダウンスケーリングによる温暖化予測情報を用いた影響評価や適応策への利用については、不確実性の取り扱い等を含め様々な問題が指摘されている。本セッションでは、予測の不確実性への対応、影響評価および適応策への応用、ダウンスケーリングの高度化などダウンスケーリング研究の現状を把握して問題点を整理し、今後の研究の方向性について議論する。

**世話人：**木村富士男（海洋研究開発機構）、高藪 出（気象研究所）、川瀬宏明（国立環境研究所）、日下博幸（筑波大学）、佐藤友徳（北海道大学大学院）、高橋 洋（首都大学東京）、原 政之（海洋研究開発機構）、吉兼隆生（海洋研究開発機構）、若月泰孝（海洋研究開発機構）

### 7. 「金星気象衛星「あかつき」の科学」

**趣旨：**日本の金星探査機「あかつき」が2010年5月に打ち上げられ、12月には観測を開始する予定である。雲層付近の大気スーパーローテーションに同期した赤道上の長楕円軌道から様々な波長で金星を観測することにより、大気の3次元的な運動が明らかになるものと期待されている。金星大気の流体力学に重点をおいた観測は世界的にも例がなく、国内外から多くの関心を集めている。本セッションでは「あかつき」によって得られる観測データとその有効な利用方法、それに必要な研究協力体制の構築、ミッションの成果を広く共有するための枠組み（データの公開やアーカイブ方法）などについて、突っ込んだ議論を行いたい。検討が始まっている日本の火星探査計画や惑星大気に関する最新の研究成果など、あかつき関連以外の話題提供も歓迎する。

**世話人：**高木征弘（東京大学大学院理学系研究科）、今村 剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことはできません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の

講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

## VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2010a@metsoc.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2010年7月20日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ  
2. 代表者の連絡先  
3. 希望日時・開催場所  
4. 予想参加人数  
5. 希望する支援内容

## VIII. 大会期間中の保育支援について

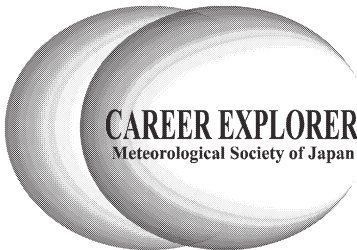
大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の幹 サイトに掲載する予定です。  
 旋を予定しております。詳細については大会ウェブ

## IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

### 1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを 2009 年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。(同様の取り組みが応用物理学会で 2007 年から行われています。)

### 2. キャリアエクスプローラーロゴ



講演予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

### 3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、講演予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 講演予稿：白黒ロゴを、タイトルの左側に、余白にはみ出さないよう適度な大ききで挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：タイトル付近の分かりやすい場所に表示してください。

### 4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。